

平成13年度当初予算 基本事務事業目的評価表

基本事務事業名] 温泉の活用事業 (401)
評価年月日] 平成12年11月14日
主担当部課名] 環境部 自然環境課
記入課名・課長名・電話] 自然環境課・課長 木平悦生・2580

1 総合計画の政策体系上の位置づけ
政策 : (Ⅲ-1) 自然との共生の確保
施策 : (3) 良好な自然環境の活用
総合計画の目標項目 : 国民保養温泉地 (ふれあい・やすらぎ温泉地)
波及効果・副次的効果を及ぼすと考えられる施策 :

2 基本事務事業を巡る環境変化 (過去、現状、将来)
温泉を利用したレジャー産業の増加、地方自治体主導の温泉を核とした地域活性化施設の増加、及び掘削技術の向上にともない県下全域での温泉利用が増加しています。
温泉開発の増加にともない、温泉地での湧出量の減少や泉質の低下が懸念される地域について、温泉保護の方法を確立することが必要となってきます。

3 基本事務事業の目的と成果
3-(1) 対象と意図 (何をどういう状態にしたいのか)
貴重な天然資源である温泉を保護し、その公共的、厚生の利用の適正を図ります。

3-(2) 成果指標名・成果指標式 (総合計画の目標項目には＊を付す)
適正利用率

$$\frac{\text{実揚水量}}{\text{利用源泉ゆう出量}} \times 100$$

②変更した場合の成果指標名・成果指標式

3-(3) 設定した成果指標に関する説明 (指標動向に影響する要因、指標の有用性、設定の理由など)
利用されている源泉について、その許可揚水量と実揚水量の割合を利用割合ととらえ、温泉の適正利用を表す指標としました。

3-(4) 結果 (施策における2010年度の目標)
利用源泉ゆう出量は新しい温泉開発により増加し、それに伴い実揚水量も増加します。
成果指標値は25程度となります。

4 基本事務事業の評価
4-(1) 前年度 (11年度)における基本事務事業の結果評価
①前年度に行った内容と成果

温泉掘削や動力設置について自然環境保全審議会温泉部会で審議を行い、温泉の保護と適正利用を図りました。
温泉成分年間変動調査、揚水量調査を実施し、温泉資源の現状把握を行いました。

②前年度に残った課題
泉質の低下や泉源間の影響がみられる地域の詳細な状況把握

4-(2)本年度(H12年度)における基本事務事業の見込み評価

①本年度行っている内容と本年度終了時に見込まれる成果

温泉掘削や動力設置について自然環境保全審議会温泉部会で審議を行い、温泉の保護と適正利用を図ります。

国民保養温泉地に指定されている紀和町湯の口温泉において「ふれあい・やすらぎ温泉地整備」に着手します。

②本年度残ると思われる課題

泉質の低下や泉源間の影響がみられる地域について、温泉源所有者と温泉保護の有効な対策についての協議

ふれあい・やすらぎ温泉地整備事業の計画的な推進

5 基本事務事業の改革方向

温泉掘削、動力装置設置及び利用について知事の許可が必要となるが、その判断基準が明確にされていないため、既採取者と新採取者との調整が困難であるため、事務の基準を明確にしていくことが必要です。

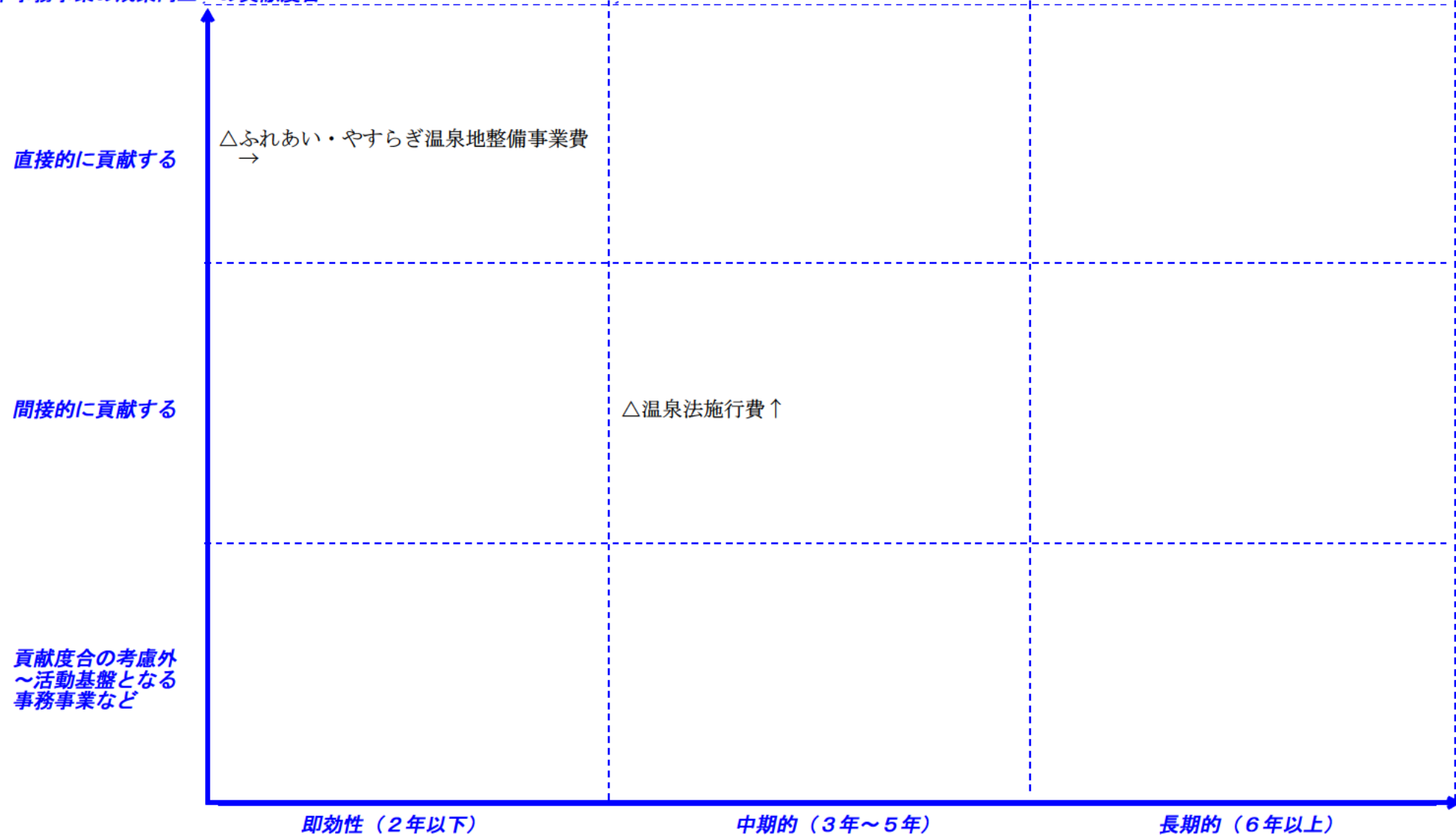
6 成果指標値及びコスト等の推移

	成果指標値		総合計画 目標数値	予算額等 (千円)	必要概算
	目 標	実 績		所要時間 (時間)	コスト(千円)
前々年度 (H10年度)	2 2 . 0	2 3 . 6	1	2, 2 5 8 4, 2 1 2	1 9, 8 6 4
前年度 (H11年度)	2 3 . 6	2 3 . 6	1	9 4, 8 8 9 4, 5 1 1	1 1 3, 6 1 0
本年度 (H12年度)	2 3 . 6	2 1 . 5	1	5 3, 3 0 0 4, 5 0 0	7 2, 1 5 5
本年度補正後 (H12年度)				+(or ▲) +(or ▲)	+(or ▲)
翌年度 (H13年度)	2 3 . 6	_____	2	1 5, 6 8 7 4, 5 1 0	3 4, 5 8 4
計画目標年次 (H13年度)	2 3 . 6	_____	2	_____	_____

7 翌年度(H13年度)の基本事務事業における事務事業戦略プランシート(PPM : Project Portfolio Matrix)

〈必要概算コスト： ☆5億円以上 ◎～1億円 ◇～5千万 △～1千万 ・1千万未満 *休止・廃止〉

基本事務事業の成果向上への貢献度合



※ 各事務事業名の右に付した矢印は、それぞれの事務事業に対する力の入れ具合である「注力」の変化の方向を表している。

※ 新規事務事業には、事務事業名に(新)を付す

[illegible]